

広島小1 女児殺害で検察、ヤギ被告に改めて死刑求める

広島市で2005年11月、小学1年の木下あいりちゃん(当時7歳)が殺害された事件で、殺人、強制わいせつ致死などの罪に問われ、1審・広島地裁で無期懲役(求刑・死刑)の判決を受けたペルー国籍のホセマヌエル・トレス・ヤギ被告(35)の控訴審初公判が8日、広島高裁(榎崎康英裁判長)で開かれた。

検察側は「1審判決は著しく軽く、不当。再犯の可能性も高く、極刑で臨むしかない」と改めて死刑を求めた。弁護側は「殺意やわいせつ目的はなかった」などと刑の減軽を主張した。

検察側は、広島地裁が証拠請求を却下したペルーでのヤギ被告の女児に対する性犯罪2件に関する資料について「犯罪性向の根深さや、矯正改善の困難さなどを判断する上で重要な意義がある」として、再度、証拠請求した。

弁護側は、1審で認定された殺意やわいせつ目的などを否定し、「(1審の)判決は重すぎ、有期懲役が選択されるべき事件」と主張。当時の被告人の精神状態について「心的外傷後ストレス障害(PTSD)などがあった可能性は否定できない」として精神鑑定を求めた。

公判後、あいりちゃんの父、建一さん(40)は「ヤギ被告は検察側の調書を真剣に聞いていないように感じた。次回は正直に事実を話してもらいたい」とコメントした。

(2007年11月8日21時48分 読売新聞)

Ads by Google

[年収一億円稼いだ男](#)

なんと！私も仲間に入れた
japanetgin.sakura.ne.jp/guch

[泥棒があきらめる家](#)

防犯パッケージで安心な住宅を実現 まずは52種類の無料カタログ請求から
sekisuiheim.com